

会 議 録

会 議 名	第4回宍粟市総合計画及び地域創生戦略委員会	
開 催 日 時	令和8年3月13日（金） 午前10時～午後0時	
開 催 場 所	宍粟市役所本庁舎 4階会議室	
出 席 委 員	林 昌彦、石原 政司、谷笹 摩弥、浪花 正典、成 将希、 岡本 一也、西川 彩児、井上 裕司、田中 由理、中野 志郎、 大垣 陽子、中本 弘美、小林 由美	
欠 席 委 員	西山 大作、山本 めぐみ	
事 務 局 及 び 説 明 員	（建設部）谷口次長、坂井次長、小坂住宅土地政策課長、 春名建設課長、原水道管理課長、山本上下水道課長 （市民生活部）朱山次長、中尾まちづくり推進課長 （一宮市民局）西岡副局長 （波賀市民局）西田副局長 （千種市民局）小河副局長 （市長公室）水口公室長、中尾次長、田中危機管理課長、 久内地域創生課長、上月副課長、岸根係長、中瀬主査	
傍 聴 人 数	0人	
会 議 の 区 分	公開	（非公開の理由） なし
協 議 事 項 等	・ 第3回委員会のフィードバックについて【資料①-1～5】 ・ 基本計画（基本目標2）について【資料②、③、参考資料】 ・ その他	
会 議 経 過 及 び 会 議 資 料	別紙のとおり	
会 議 録 確 認 者	委員長 林 昌彦 （令和8年3月19日確認）	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
委員長	■開会
事務局	■委員長あいさつ
委員長	■第3回委員会のフィードバックについて【資料①-1~5】 (説明) この1回きりのやりとりではなく、何度も繰り返すことで良い計画にしていければと思う。ご自身の意見の趣旨と異なる部分がある、また違った整理ができるのではないかとこの部分があれば、ご意見をいただきたい。
全委員	(特になし)
委員長	後ほどでも修正意見があれば、お伝えいただきたい。
事務局	■基本計画(基本目標2)について【資料②、③、参考資料】 (説明)
基本方針4 快適な住環境の整備について	
委員	政策9について、参考資料の「空き家実態調査」のデータでも現実課題としてC判定が多く、特定空き家を含めた管理不全空き家の適正管理に関して、取壊し等の表現の追加が必要だと思う。 また、政策10について、上下水道施設が更新時期を迎えた際には、大きな費用がかかることが想定される。コスト削減など財政的な表現も盛り込んでどうか。
委員	全体的に、文章は短くなって、計画として分かりやすくなっていると思う。 一点、政策10の書きぶりについては、先ほどの意見と同様に、財政的な部分を加えた方がいいと考える。政策10は行政的な側面が強いので、基本方針4の中に入れるのであれば、政策9に組み込んでもいいかもしれない。
委員	現状と課題の文章のところに「公園を多目的に活用する自治体が全国的に増加している」とあるが、宍粟市の公園についてはどのように考えているのか、教えて欲しい。
委員	政策12の機能的な交通ネットワークの構築について、私の住んでいる地区ではバスが廃線になり、最寄りの基幹路線のバス停まで約2.5kmある。もっと遠い方もおり、バスの利用はしづらい状況。田舎なので車が無いと

委員	<p>生きていけないという中で、移動手段の確保は大事と考えている。最近「三方繁盛つれてってカー」が運用されているが、利用する場所が限定されており、少し使いづらいとの声がある。もっと融通が利くというか、使いやすい移動手段を考えていかなければ、高齢者が増えてくるとますます暮らしていけない状況にあると感じている。</p> <p>市民の声に「資源物回収ステーションに持ち込めば自治会のお金になる」という記述がある。私の聞いた話では、一括で回収量を管理して各自治会に分配しているとのことだが、この表現では各自治体で集めた分がそのまま各自治体に還元されるように読めるので、整合性が気になった。</p> <p>また、政策8ではエシカル消費についての記載があるが、消費者協会が色々な活動をされていて、私も時々参加しており、面白い取組だと思う。</p>
委員	<p>政策8に関して、私も「キエー口」を導入できていないが、もう少し普及したらよいと思う。</p> <p>交通に関しては、2018年に養父市で「過疎地ライドシェア」が導入されており、既存のタクシー事業者とも連携して進められているそうなので、宍粟市にも導入されたらいいと思う。</p>
委員	<p>政策10の上下水道について、難しいとは思いますが、自治体単位の管理ではなく、香川県でされているように、揖保川流域での広域的な管理ができると、負担軽減に繋がると思うので検討してほしい。</p>
委員	<p>政策9について、温暖化が進んでおり、夏場は暑すぎて公園に行くのも大変な状況なので、木陰があるといいのになと思う。</p>
委員	<p>政策8に関連して、自然の保全に向けた学校教育や生涯学習とあるが、宍粟市にとって杉・檜は大事な資源であると思うので、もっとアピールしてはどうか。森林セラピーの赤西溪谷や東山など、天然林をアピールするのも良いが、やはり宍粟市は杉・檜で栄えたまちだと思っているので、そういった歴史文化も踏まえ、参加型の環境イベントの一環で、林業体験ができるようなイベントがあると、他の自治体との差別化も図れると思う。</p> <p>森林・林業のことを、地元の子も良く知らない実態がある。林業事業体と高校生の交流の機会を設けることで、林業のイメージを具体化したり、森林大学校では林業で働くための知識が得られることを周知したりして、身近に仕事があることを知り、宍粟市が大好きな子どもたちが市外に出ていかに済む、暮らしやすいまちに繋がるのではないかと考える。</p> <p>政策9について、若者が起業する際には住むところの確保が必要になるが、市の木材を用いて空き家をDIYし、シェアハウス等にすることで、安く住居が手に入り、起業・転居のハードルが下がると思うので、管理不全空き家への施策として有効ではないか。</p> <p>また、公園の利用者減少に関連して、一度潰れてしまった「宝塚自然の</p>

	<p>家」が、起業セミナーに参加していた若者の柔軟な発想で再生された例もある。政策8の木質バイオマスにも関連するが、最近では木を燃やす経験もあまりない中で、自分で火を起こしてご飯を炊く体験だったり、焚火にあたるイベントだったり、公園に付加価値をつけることで利用者を増加させることに成功しているの、宍粟市でも参考になる事例だと思う。</p>
委員長	<p>ここまでの意見を受け、事務局からの発言や、回答できることはあるか。</p>
事務局	<p>資源物回収ステーションから回収したびん・缶などについては、市内業者に売却し、連合自治会や各自治会に還元する仕組みとなっている。ステーションごとの回収量は把握しておらず、あくまで全体の売却益から自治会の規模に応じて分配額を算定している。</p> <p>また、生ごみや食べ残しが可燃ごみの約3割を占めていることから、水分を多く含む生ごみの処理に有効であるキエー口の普及推進を図っている。</p>
事務局	<p>上水道については、薬品の共同購入で経費削減をするなど、県西部での広域連携の協議を進めている。一方で、管理の広域化については国の方針としても打ち出されつつあるので、統合の話も今後出てくる可能性はある。</p> <p>個別計画として「下水道施設統廃合計画」を示しているが、宍粟市は施設数が他の自治体と比べて多いので、施設の統廃合をこれからのメインの事業として検討を進めているところである。</p>
委員	<p>政策9の項目に、「働きやすい空間」といったキーワードがあっても良いのではないかと思う。</p>
委員長	<p>事務局の説明に関して、何か追加の意見はあるか。</p>
委員	<p>政策9に関連して、空き家の適正管理は本来所有者が行わなくてはいけないものだと思う。市としては、勧告や通知を行っていくということか。</p>
事務局	<p>実態調査を行い、管理不全の空き家に関しては所有者に通知しているが、通知後も対応がなく、建物の状況が悪いものについては特定空き家とし、指導・助言を続けて対応を求めている。緊急性のあるケースは行政代執行になる場合もあるし、固定資産税の住宅用地特例が解除される場合もある。</p>
委員	<p>この文章では市が全て対応してくれるように読めるので、所有者に対する適正管理を促していくといった表現でも良いかと思う。</p>
	<p>基本方針5 生活圏の拠点づくりについて</p>
委員	<p>政策12について、買い物や通院などの移動支援はますます重要になっている。千種町では、地域運営組織がデマンド型交通「ちくさえとこバス」</p>

	<p>の本格運行を開始された。市や交通事業者、住民が連携し、一体となって地域を支える移動手段の検討が進めばいいと思う。</p>
委員	<p>「公共交通と地域資源のアクセス強化」に関して、具体的にどのような取組が考えられるか。</p>
委員	<p>「市外から足を運んでもらいやすいまちにしたい」という市民の声があるが、近隣自治体では廃校を利用して遊べる施設に活用している例もあるので、例えば木育もできるような施設づくりの方針を政策 11 に取り入れられると良いと思う。</p>
委員	<p>路線バス関連のKGIに「利用者数」ではなく「利用したことがある人の割合」という感覚的な指標を設定した理由があれば教えて欲しい。</p>
委員	<p>現状と課題に「旧町ごとに生活圏の拠点エリアを構築」と記載がある。合併した自治体の多くが抱えている課題であるが、そこに対応する方向性を含めた計画づくりができていることは良いことだと思う。</p> <p>施策 11 に「新病院や市役所などの周辺エリアについて賑わいの創出に取り組む」とある。拠点として、もちろん環境整備や賑わいはある程度必要である一方で、病院周辺には静粛性も必要になると思う。過度な賑わい創出とならないような考え方を、「調和した開発」という一文で担保されているということか。</p>
委員	<p>政策 11-2 に「中心市街地の利便性・快適性を高める」とあるが、店舗の数、訪れる人の数など、何をもちょう示すのかが分かりにくいと感じる。</p> <p>また、「近隣市町との連携強化」や、政策 12-4 の「地域特性に応じた新モビリティサービス」についても、読んだだけでは何をやるのかが分かりにくいので、もう少し具体性があると良い。</p>
委員	<p>政策 11-2 の項目は、もう少し具体的に踏み込んだ記述があったほうが分かりやすいと思う。</p>
委員	<p>他の地域との差別化を図ることが大切であり、例えば、秋田駅には木をふんだんに使ったバスターミナルがあり、木のまちであることが来訪者によく分かる。宍粟市でも、特有の資源である杉を活かして、木造化は難しいと思うが内装の木質化なども含めて、拠点のデザインを考えていけると良いのでは。</p> <p>政策 11-3 に関して、通勤・通学支援も流出抑制として重要だが、市内で働いて暮らしていけることが何よりも人口流出減に繋がると思うので、地域の産業を育てる視点が大事ではないか。</p>
委員	<p>政策 11-3 について、若者のニーズの把握に取り組んだ後どうするのかを具体的に盛り込む必要があるのではないか。また、「神姫バスとの連携を</p>

<p>委員</p>	<p>図ります」のような表現の追加が必要だと思う。</p> <p>政策 11-3 に関して、令和 10 年からの部活動の地域移行に向けて協議が進行中であるが、通学だけではなく、部活動の際の移動手段なども心配している。</p> <p>地域の人がバスを利用していない状況について、地域の経営者等が集まったプロジェクトの中で、バスロゲーニング（宝探し）を企画し、地域も巻き込んでバスに乗ってもらおうと取り組んでいる。行政と一緒に取り組めれば、そういった活動がもっと広がっていくと思う。</p> <p>先ほどの委員の意見に関連して、伊和高校ではキャリア実習としてインターンシップを実施しており、その中で農業に関わった生徒が、市で農業したいと思い農業大学に進学したと聞いた。そのように、地域の企業が中高生と連携する機会が増えると、宍粟市で働きたい人が増えていくのではと感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>千年水の水汲場への来訪者を対象に行ったアンケートは、約 8 カ月で 303 件の回答をいただいているが、回答者のうち、まほろばの湯の利用者は約 85% である。神戸市といった遠くからの訪問もあり、市民の声にある「市外から足を運んでもらう」生活拠点づくりの支えの一つになっていると感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>政策 12-4 に、外出が困難な高齢者等の課題解消に向けては、移動手段の確保の方向性を示されているが、別の選択肢として「移動が難しい人が、希望すれば空き家等を利用して、市内の生活利便性の高い場所に移住する」という考え方、これに市が協力するという考え方も持たれているのか、市の見解を教えて欲しい。</p> <p>また、人口減少が続く中、企業は労働者として外国人を積極的に受け入れられていると思うが、市としての人口減少抑制策として、積極的に取り組む考えや目標数値はあるのか、教えて欲しい。</p>
<p>委員</p>	<p>バスについて、地域ごとの時刻表があれば移動の予定も立てやすく、バスを利用しやすくなると思うのだが、そういったものはあるのか。また、「ここで何時何分のバスに乗って移動」と案内するなど、市を廻るルートを作れば、観光にも生かせるし、高齢者や子どもが市をじっくり巡るきっかけにもなると思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>具体についての意見があったので、事務局からの補足などはあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>新病院や市役所周辺の開発に関しては、一帯が圃場整備をした農業振興のエリアになっていることもあり、現時点では具体的な計画は無い。しかし、新病院近くにアパートの建設や住宅地の造成も進んでおり、今後の需要も見込まれることから、開発に関する大きな計画を進める際には、周囲環境との調和を大事に考えていく。</p>

事務局	<p>木質化の話もいただいたが、病院は防火上の問題もあるので木造は難しい面もあるが、木質化のできる部分から取り組んでいきたいと思う。</p> <p>外国人の移住施策に関しては、労働力確保などの観点から、市として拒むものではなく、企業などで受け入れている実情も把握しているが、具体的な計画や施策は打ち出していない。</p> <p>また、高齢者等の移住に関する意見については、北部地域ではそういった考えを持たれている方もおられるが、市の施策としてはそこまで踏み込んだ検討はできていない状況である。</p> <p>現在のバス路線は平成 27 年に再編を行ったもので、幹線となる大型バスと小型バスの接続による地域公共交通ネットワークの形成を図っているが、乗車人数が少ない小型バス路線については見直しを行う中で、一宮北・波賀・千種地区を交通空白地として定義している。地域公共交通の在り方を住民と共に検討する中で、自家用有償旅客運送である「三方繁盛つれてってカー」や「千種ええとこバス」が運行を開始している。</p> <p>地域公共交通施策に係る KGI は、現行計画では利用者数で管理していたが、より現実的な状況を把握するために、実数ではなく割合を目標とすることを考えている。しかし、実数の方が良いという議論になれば、改めることは可能であるので、こういった指標にすべきかのご意見をいただければと思う。</p> <p>時刻表については、年 1 回のダイヤ改正に伴い、新しい時刻表を全戸配布している。また、宍粟市地域公共交通計画の中で新たなモビリティサービスの検討を進めることと整理しており、インターネット検索機能や神姫バスナビ等を用いた乗換案内などの運用を進めている。</p> <p>基本方針 6 安心な暮らしの経験</p>
委員	<p>交通安全と防犯体制の充実について、最近、業者が「不要品がないか」と戸別訪問している回数が多いと感じる。既に啓発されていることだとは思いますが、高齢者が増えてきているため、注意喚起が必要ではないか。</p>
委員	<p>宍粟市には防災センターがあるので、小学校の防災教育でも活用するのが良いと思う。小さいころから防災について学び、経験しておく機会があると、大人になっていざという時に対応ができると思う。先日、山崎高校生が炊き出しの実習をされていたが、地域との関わりが薄れてきた今だからこそ、こういった経験が大事だと思う。</p> <p>また現在、消防団員の方も少なくなり、50 歳を過ぎてやっと退団したり、声を掛けても入団してくれない方がほとんどだったりする。有事の際にはやはり地域ですぐ動けるような体制が大事だと思うが、地元の分団が将来的に維持できるのかなという不安がある。</p>
委員	<p>政策 13 に関して、過去に宍粟市で起こった災害を「見える化」して、減災に役立てる活動を行ってはどうか。</p>

委員	<p>政策 13 について、災害時の避難生活を快適にする取組などは、別の項目で書かれるのか。災害発生に備えるだけでなく、いざという時には避難所でも快適に過ごせるようにという方向性もここに盛り込めば、災害に強いまちづくりに繋がると考える。</p>
委員	<p>消防団員の確保は、人口減少の中でどの自治体も抱えている課題であり、田舎ゆえに初期消火に関わる消防団の必要性は高まっている。人口減少の中では、従来の活動の継続が難しくなるのはやむを得ないが、役割の限定化や細分化、機能別の組織にするなどして、個々の負担を減らすような方向性も考えられると思う。本日の素案は原案から記載が変更されており、「組織再編」という大きな捉え方になっているので、地域別の再編だけでなく、役割を限定するなど「機能再編」にも取り組んでいったらどうか。</p>
委員	<p>また、施策 15 について、「他部署」という言葉があるが、これは市役所内のことなのか、それ以外の関係機関も含むのか。削除したとしても文章は違和感なく繋がると思う。</p>
委員	<p>K G I の消防団員数について、実際は人数が足りずに「幽霊団員」のような方がいる中で活動をしていた経験がある。そもそも人口減少の中ではこれ以上団員数が増えることは考えにくく、また、この数値が改善したから良くなった、と言えない指標を掲げることは疑問に思う。団員数は人口に比例して動く数値なので、防災に強いまちを表す指標として掲げるというのは少し筋違いだと思うので、考慮する必要があるのではないかと。団員数の確保はもちろん重要だが、再編や組織形態を変えていく、あるいは自治会の中で一定の機能を担うなどの方向性で考えていくことが必要だと思う。</p>
委員	<p>政策 13-2 の消防団員について、会社で消防訓練をしても、消防団に入っている人と入っていない人では、初期消火への対応も全く違うということもあって、団員確保はとても大事なことだが、入団できる年代の人が入団しないケースが増えていると感じている。地域防災組織の育成についても書かれているが、大人だけではなく、小中学生も含めた地域全体を巻き込んで、防災意識を持っていただくような取組もここに含めてはどうかと考える。</p> <p>あわせて、A E D の使い方の周知や設置場所の把握、維持管理に関する市の取組や支援というところも計画に盛り込んではどうか。</p> <p>また、防災センターは完成してから時間が経っているが、デジタル部分での更新はされているのか、信頼できる状態に保たれているのかが気がかりであり、また、有事の際に拠点となるのは本庁舎か防災センターなのか、市民にとっても曖昧になっているので、計画で明記しておくと思う。</p> <p>施策 15 については、「関係機関への接続や他部署での協力体制」とあるが、広報などで相談案内はしていても、実際には相談者がゼロということも多い。メンタル面で困っている方が足を運んで相談するというのは少し</p>

	<p>敷居が高いと思う中で、相談会を実施したという実績だけで効果を測るのではなく、相談が必要な方の話をどれだけ聞いたのかが重要だと考える。</p>
委員	<p>山崎断層など大規模災害が発生して、万が一、市役所が機能不全に陥った場合に、例えば市民局で対応するなどの対策は考えられているのか。</p>
委員	<p>施策 13-5 について、平成 30 年 7 月の集中豪雨時に北部では山崩れがあり、1 名が亡くなられた。数年かけて一定は復旧したが、崩れた箇所は荒地のまま土の山のようになっている。現在は自治会を中心に、地面を固めるという目的も含めて、桜や桃を植樹し、また、災害を風化させないための記念公園化を進めている。引き続き治水ダムを作る計画の相談も県と進めており、災害に遭った地域としては極力協力して、治山・治水に努めていくとともに、住民の意識啓発も続けていきたい。</p>
委員	<p>防災訓練というと消火や避難行動を学ぶと思うが、今、小学校の家庭科室がオール電化になっている。個人的には、教育現場である学校でこそ火の危なさや、生活に欠かせない火の扱いを正しく学んでほしいと思うので、家庭科室を改修する時は考えていただきたい。</p> <p>交通安全について、4 月から自転車のルールが変わる。学校では交通安全教室が実施されると思うが、大人との認識に乖離があると子どもが窮屈な思いをすることもあると思うので、しーたん放送などを通じて大人への周知も並行して行う必要があると思う。</p>
委員	<p>女性の消防団員はまだ穴粟市にはいないので、女性の参画をもっと促進できればよいと思う。私自身も実際に入団しようとしたことがあったが、消防団の方が逆に煙たがっておられた。自治会の三役に女性を入れる動きは進んでいるが、消防団も女性が入団すると特典があるなど、積極的に入団させる動きがあっても良いのではないかと考える。男性の方が市外など勤めに出ている時間が長く、女性は市内や家の付近で働いているケースが比較的多いと思うので、有事の時に動きやすいのは女性ではないかと考える。母親が消防団活動をしていると、子どもも防災に興味を持つなど良い影響もあるのではないかと考える。</p> <p>相談体制の確立について思うこととして、自殺の相談や思春期の子の悩み相談は、夜中の需要が多い。子育て世代の産後うつなどでも、胸の詰まる思いで夜を過ごす方が多いので、シェルターのような場所や 24 時間気軽に相談できるところがあってほしい。</p>
事務局	<p>防災センターの見学は現在も行っており、申し込んでいただければ、備蓄倉庫や施設の耐震構造の見学に加え、防災ビデオを見ていただくことも可能。</p> <p>団員数が減少している消防団の課題として、人が集まらなると消防車が出動できないということがあったため、分団の再編や組織再編を行い、出動体制を確保している。新規入団者が少ない現状を受け、今後の方針を団</p>

	<p>の幹部の方で継続して検討を進めている。</p> <p>過去の災害の教訓と計画への反映について、現在の防災計画や、今年度改訂する強靱化計画においても、平成 21 年や平成 30 年の災害を踏まえ、どのような方向性で対策を取るべきかを検討している。</p> <p>市役所が機能不全になった場合の対策については、業務継続計画（BCP）を策定しており、本庁舎が被災した場合には、被害の少ない市民局を拠点にするなど、状況に応じた対応手順を定めている。</p> <p>大人への交通安全教育については、出前講座などのメニューがあるので、活用していただきたい。</p> <p>女性消防団員について、制度上は加入していただけるようになっているが、現状の課題としてはトイレや着替え場所といった施設面・環境面の整備が追いついていないという点がある。今後は、本庁舎や各市民局など環境の整う場所での受け入れも含め、団本部と協力して検討を進めていく。</p>
委員長	<p>委員から、追加の発言があればお願いしたい。</p>
委員	<p>政策 15 について、宍粟市でも自殺対策計画を策定されているが、現在、中学校でも不登校の子が何人かいる。その子たちがそのまま高校へ行かずに自宅で引きこもっていた場合、学校からは離れてしまうので、どのようなサポートがされるのか懸念している。自分から「困っています」と言わないと、民生委員の方々によるフォローも難しいと思う。市内の事業所ともしっかり連携して行ってほしいと思うし、これから引きこもりの子が増えてくるかもしれないので、支援を充実させてもらえると安心して暮らせるまちになるのではないかと。目標指標にもそのような関連数値を掲げて、変化や傾向を把握していけると良いと思う。</p>
事務局	<p>■その他 （報告）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 5 回委員会について 【開催日】 4 月 23 日（木）午前 10 時～ 【議 題】 基本計画中、基本施策 7～9 ・ 第 6 回委員会開催に係る日程調整について
副委員長	<p>■閉会</p> <p>今回については、非常に生活に密着したテーマだったので、生活の中で感じた問題など、時間ギリギリまで、様々な意見があったと思う。可能な限り計画の中に盛り込んでいただけるようお願いして、今回の会議を閉会とさせていただく。</p>